

ピレモンへの書

一 キリスト・イエスの囚人たるパウロ及び兄弟テモテ、書を我らが愛する同労者ピレモン、二 我らの姉妹
 アピヤ、我らと共に戦闘をなせるアルキポ及び汝の家にある教會に贈る。三 願くは我らの父なる神および主イエ
 ス・キリストより賜ふ恩恵と平安と、汝らに在らんことを。

四 われ祈るとき常に汝をおぼえて我が神に感謝す。五 これ主イエスと凡ての聖徒とに對する汝の愛と信仰と
 を聞きたればなり。六 願ふところは、汝の信仰の交際の活動により、人々われらの中なる凡ての善き業を知り
 て、榮光をキリストに歸するに至らんことなり。七 兄弟よ、我なんぢの愛によりて大なる歡喜と慰安とを得た
 り。聖徒の心は汝によりて安んぜられたればなり。

八 この故に、われキリストに在りて、汝になすべき事を、聊かも憚らず命じ得れど、九 寧ろ愛の故によりて
 汝にねがふ。一〇 既に年老いて今はキリスト・イエスの囚人となれる我パウロ、縲紲の中にて生みし我が子オネシモ
 の事を、なんぢに願ふ。一一 かれ前には汝に益なき者なりしが、今は汝にも我にも益ある者となれり。一二 我かれを
 汝に歸す、かれは我が心なり。一三 我は彼をわが許に留めおきて、我が福音のために縲紲にある間、なんぢに代り
 て我に事へしめんと欲したれど、一四 なんぢの承諾を経ずして斯くするを好まざりき、是なんぢの善の止むを得ざ
 るに出でずして、心より出でんことを欲したればなり。一五 彼が暫時なんぢを離れしは、或は汝かれを永遠に保
 ち、一六 もはや奴隷の如くせず、奴隷に勝りて愛する兄弟の如くせん爲なりしやも知るべからず。我は殊に彼を愛

イ門九(門二三)	弗	へ	腓三・二五(提後二	(撒前三・六)	二・二)	井(創四五・五、八)
三・二を見よ				ワ腓一・九	西一・九、	ソ羅二・二二を見よ
ロ腓一・一			ト西四・二七	三・一〇	ツ(多二・二)	ノ(哥前七・二二)
ハ哥後一・一を見よ			チ羅一・六・五を見よ	カ哥後七・四、一三	ネ門一を見よ	オ太二三・八 提前六
西一・一			リ羅一・七を見よ	ヨ門二〇 哥前一六・	ナ哥前四・一五を見よ	二を見よ
二門二四 腓三・二五			又羅一・九を見よ	一八を見よ	ラ西四・九	
を見よ			ル羅一・八を見よ	タ(弗五・四)	ム腓一・七(門一〇)	
ホ羅一六・一			ヲ弗一・一五を見よ	レ(哥後三・一二 撒前	ウ彼前五・二(哥後九	

一七 況して汝は肉によりても主によりても、之を愛せざる可けんや。一七 汝もし我を友とせば、請ふ、われを納るごとく彼を納れよ。一八 彼もし汝に不義をなし、または汝に負債あらば、之を我に負はせよ。一九 我パウロ手づから之を記す、われ償はん、汝われに身を以て償ふべき負債あれど、我これを言はず。二〇 兄弟よ、請ふ、なんぢ主に在りて我に益を得させよ、キリストに在りて我が心を安んぜよ。

二一 我なんぢの従順を確信して之を書き贈る。わが言ふところに勝りて汝の行はんことを知るなり。二三 而して我がために宿を備へよ、我なんぢらの祈により、遂に我が身の汝らに與へられんことを望めばなり。

二四 キリスト・イエスに在りて我とともに囚人となれるエパfras、及び我が同勞者マルコ、アリストタルコ、デマス、ルカ皆なんぢに安否を問ふ。

二五 願くは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらの靈と偕にあらんことを。

ヒレモンへの書 をはり

イ(弗六・五 西三・二)	ニ(哥後九・四)	リ(徒二七・二四 來一三・一九)	ヲ(西一・七を見よ)	ヨ(徒一九・二九を見よ)
ニ	本門七を見よ	三・一九	ヲ(西一・七を見よ)	西四・一〇
ロ(哥後八・二三(門六))	ヘ(哥後二・三を見よ)	又(腓一・二五、二・二)	ワ(門一を見よ)	夕(西四・一四を見よ)
ハ(哥前二六・二二を見よ)	ト(徒二八・二三)	四	カ(徒二二・一二を見よ)	提後四・一〇
よ(哥後一〇・二)	チ(哥後一・二二を見よ)	ル(羅一六・七を見よ)	西四・一〇	レ(加六・二八を見よ)

一〇 原語「益ある者」の義なり。